

令和元年度 佐賀県立武雄高等学校 学校評価結果

1 学校教育目標		2 本年度の重点目標					達成度 A:ほぼ達成できた B:概ね達成できた C:やや不十分である D:不十分である	
高い志と未来を切り拓く力を持ち、地域や国際社会の発展に貢献できる、人間性豊かな人材を育成する		①高い志を抱いた生徒一人ひとりの能力・個性を伸ばし、継続性を持った中高一貫教育の推進 ②基礎から応用までの教科指導の充実や、生徒が深く考える活動を通しての進路目標の実現 ③アクティブ・ラーニングやICT利活用を手段とし、主体的な学習活動ができる授業の推進 ④地域や国際社会の発展に寄与できる人材の育成 ⑤様々な教育活動や生徒支援による、心身の健康の増進と豊かな心や想像力の育成 ⑥保護者や地域との連携を深め、広く共感と信頼を得られる学校づくりの推進 ⑦教職員の指導力向上、働き方改革を踏まえた機能的・効率的な学校運営による組織力の強化						
3 目標・評価								
①高い志を抱いた生徒一人ひとりの能力・個性を伸ばし、継続性を持った中高一貫教育の推進								
領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題（左記の理由）	具体的な改善策・向上策	
特定課題	○中高一貫	併設中学校との連携を進める	・中高教師間の連携を深め、教育力を高める。 ・中高生徒間の交流を深め、一体感を持たせる。	・教科別に中高で互いの授業を参観し合い、授業研究会を実施する。 ・高校の教科担当者会議等に中学校職員にも参加してもらう。 ・中高生徒の各種行事・部活動での交流機会を設ける。 ・グランドデザインをもとに中高一貫教育を推進する。	B	・11月にすべての教科で中高相互の授業参観と授業研究会を行い、中高6年間を通した指導の在り方について話し合った。 ・さまざまな行事を中高合同で行った。部活動もいくつかの部が中高合同で練習を行った。 ・中高一貫教育推進委員会をこれまで以上に活用し、中高職員が互いを知り、交流を深める機会とした。	・中高の校地が離れていることは前提として、中高の生徒間交流を全体として取り組むのではなく、一部の生徒が交流できる機会を増やしたい。 ・3回の中高一貫教育推進委員会をより活性化するために中高職員によるグループ討議など、活発な意見交換が行われる場にしていく。	
	②基礎から応用までの教科指導の充実や、生徒が深く考える活動を通しての進路目標の実現							
領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題（左記の理由）	具体的な改善策・向上策	
特定課題	○進路指導	進路第一希望の達成	・一人一人の生徒が適切な進路選択ができ、その進路実現のための支援を行う。 ・3年国公立大学合格者150名以上、うち難関大学合格者30名以上、国立大学医学部科数名の合格者を出す。	・1年次より教科担当者会議を計画的に行い、3年次の進路検討会へと繋げ、3年間を見通した指導を行う。 ・進路講演会、職員研修会等を行い、生徒の意識向上及び職員の授業力向上を図る。 ・文理分け、コース分けのための情報提供を行い、指導・面談の充実を図る。 ・難関大学希望者への個別指導を、早い時期から実施する。 ・短大・専門学校・就職希望者には個別に対応する。。	B	・教科担当者会議・進路検討会の分析方法は、より改善され、会議で活発に検討がなされた。特に、3年生の進路検討会では三者面談への良いアドバイスができた。 ・1・2年の教科担当者会議は、回数を1回減らしたが模試の結果を分析した資料は作成し、指導の継続はできた。 ・今年度の国公立大学の出願者数は大学入試センター試験の平均点ダウンにもかかわらず、昨年並みの数であった。 ・京都大1名、九州大学11名を含め国公立大学に124名の合格者となった。昨年度よりも国公立の合格者数を下回ったが、推薦・AO入試では佐賀大学医学部医学科2名をはじめ合格者15名と昨年より倍増した。 ・看護・医療系専門学校希望者は、面接・小論文指導を組織的に扱い、進路希望をほぼ達成できた。 ・公務員は自衛隊2名、消防士1名。	・教科担当者会議の内容や方向性は現状で良いと思うが、成績資料についてより見やすく、分析方法も工夫していきたい。 ・中学校から6年間の成績をG T Zで比較し、一貫した指導の参考にしたい。 ・各学年とも、成績上位の生徒が少なく、超難関大志望者の育成と指導の工夫が必要。 ・推薦・AO入試の拡大に対する対策も検討・工夫が必要。	
	●学力向上	志を高める教育	地域の活動・多文化に触れる機会を設定し、海外研修や異文化交流会への参加者を増やす。	・異文化交流事業として、平成31年度も3月にオーストラリア海外研修を実施する。平成30年度のオーストラリア海外研修については4月に校外活動体験発表会で報告をする。 ・武雄市との協力による地域創生参画事業において、地域課題の発見やその解決に取り組む。	A	・異文化交流事業として、平成31年度も3月にオーストラリア海外研修を実施するために募集、案内等を行ってきたが、新型コロナウイルスの感染拡大防止のため中止を決めた。平成30年度のオーストラリア海外研修については4月に校外活動体験発表会で報告をし全生徒との共有を図ることができた。 ・武雄市との協力による地域創生参画事業においては、1年生において地域を知ることとを目的として、グループに分かれての「武雄市まち歩き」、武雄市出前講座を実施し、地域課題の発見やその解決に取り組んだ。	・平成31年度も3月にオーストラリア海外研修の中止に伴い、留学からの帰国した生徒などに海外での活動などの報告を検討する。 ・武雄市の協力を次年度もお願いしており、探究の時間で情報提供や生徒たちの活動にとって必要な活動を計画している。 ・今年度の取り組みをより円滑に進め、考えてきた課題をより深めることができるように武雄市と協力して計画を立て実施する。	
教育活動		教職員の指導力向上	・基礎的レベルから応用・発展レベルまで対応できる指導力を身につける。	・大学入試問題研究等の実施によって、より実践的な知識と技能を身につけ、日常の授業への応用を図ることにより、授業内容の改善に取り組む。 ・校外の入試研究会や教科の講習会等に積極的に参加し、入試問題や入試動向等の研究を行う。	B	・「難関大入試研究会」、「入試結果説明会」などに延べ105名が参加。研究会等への参加は増加。新入試に対しての情報収集には積極的に参加できた。 ・予備校主催の「教員対象セミナー」には、県の研修支援事業で6名が参加。昨年より1.5倍の職員が研修することができた。 ・大学入試問題研究には、全職員が取り組み、その成果を提出。昨年度より早期に取り組み、その後の指導に活かされた。	・入試について大きく変化しているので、各種説明会への積極的な参加を呼びかける。 ・入試改革の変更が相次ぎ、職員・生徒が混乱しないように情報の収集・提供をしていく。 ・「教員対象セミナー」については、予算措置ができれば、参加者は増えると思われる。 ・超難関大志望生徒への指導方法を確立させたい。 ・大学入試問題研究への取り組み方、内容について更に改善したい。	
		生徒の実力養成	・全国模試総合偏差値60以上を各学年110名以上にする。	・学習時間調査、進路希望調査の実施や、「学習と生活の記録」を活用し、生徒の日々の生活状況を把握し、指導に活かす。 ・職員研修の充実による教員の授業力向上を図る。 ・模擬試験を受け、教科担当者会議を実施し、結果の検証、見直し、設定をする。	B	・1月進研模試での偏差値60以上は、1年106名、2年71名と目標には届かなかった。また、3年11月進研では26名と、大きく及ばなかった。 ・「学習と生活の記録」を用いて、生徒の日頃の学習状況を把握し、指導に生かした。 ・毎学期学習時間調査を行った。1日平均で3学期は1年生129分、3年生134分とまだ少ない。3年生2学期は259分だった。	・目標はどうしても高めに設定しているので、厳しい結果になるが、1年生は目標にかなり近づいている。全体的な底上げ、生徒の意識改革が必要。 ・1・2年次の家庭学習時間が少ない。最低180分以上を目標としたい。また、課題などの出し方も各教科・学年でも工夫・検討が必要。	
		「探究Ⅱ」の工夫と校外体験活動の奨励	・進路達成に資する各学年ごとの「探究Ⅱ」を計画・実行する。 ・年間50件以上の校外活動を紹介・募集し、延べ150人以上の活動体験者を出す	・探究Ⅱ委員会、企画研修部会で、各学年の探究Ⅱにおける活動内容を検討し、必要な修正を行う。探究活動（進路研究、地域研究、協働学習、小論文指導等）を充実させる。 ・募集中の校外活動についてポスターや教室掲示で生徒に案内する。また、活動への参加目的が明確になるように参加報告書を書かせ、事前事後指導を行う。校外活動体験発表の場を設け、また文書による報告を行い、経験を共有させる。	B	・探究委員会を定期的に行い、スムーズな探究活動の実施に努めた。 ・朝HRでの紹介や掲示板へのポスター・チラシの掲示により、数多くの校外活動を紹介・募集した。 ・校外活動に積極的に参加しようとする生徒は例年どおり多くみられ、本校の特色としてほぼ定着している。これは校外活動体験発表会の効果も大きいと考えられ、また、生徒相互のロコミによる広がりも大きいと考えられる。	・「探究Ⅱ」の内容についてはさらに検討し、よりよい活動ができるようにしたい。 ・校外活動に参加する生徒は多いが、そのすべてにおいて報告書を学校に提出するということが徹底できていない。学習用パソコンに記録していくことと併せて報告書の提出を確実に行うように指導していく必要がある。	
③アクティブ・ラーニングやICT利活用を手段とし、主体的な学習活動ができる授業の推進								
領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題（左記の理由）	具体的な改善策・向上策	
教育活動	○教育の質の向上に向けたICT利活用教育の実施	ICT利活用教育に対する生徒の満足度を高める（肯定的評価90%以上）。	・電子黒板や学習用PCを全教科で活用し、効果的な授業実践を行う。 ・学校教育活動全体を通した学習用PCの利活用を推進する。	・電子黒板や学習用PCの授業における活用状況を調査する。 ・各教科で電子黒板や学習用PCを活用した公開授業を行い、より効果的な活用を検討し実践につなげる。 ・SEI-Net、classi、スカイメニューなどの積極的な活用を推進する。	B	・ICTの利活用について、学校評価アンケートにおける生徒の評価は、昨年度とほぼ同じ数値であった。 ・授業以外でも、家庭学習や部活動においても学習用PCが多く活用されていた。 ・県の情報システム変更に係る業務が非常に多く、利活用に関する業務に専念できないことが多かった。 ・classiの教員向け研修会を開催するなど先生方のICTに関するスキルの向上に努めることができた。	・ヘルプデスク現地員、教育情報化支援室と連携を密にしながらICT環境の整備に努める。 ・無理なくできるICTの利活用の取組を1つ、2つなど絞って先生方に提案していく。 ・ICTの利活用法について情報を収集し、先生方や生徒に情報提供をしていく。	
	○主体的で効果的な学習活動のための「アクティブ・ラーニング」の積極的導入	授業への導入を促進し、かつ、その検証と研究を行う。	・個人、グループで考えをまとめさせ、自分の考え方や行動についても考えさせるなどの活動を授業に取り入れる。	・各教科でアクティブラーニングを取り入れた授業研究会を行う。 ・中高合同授業研究会でアクティブラーニングを取り入れた授業の研究を行う。 ・1・2年生の探究においてアクティブラーニングを取り入れた活動を行う。	B	・中高合同授業研究会でアクティブラーニングを取り入れた授業について話し合いを行った。 ・1・2年生の探究の協働学習でアクティブラーニングを行った。	・教科によっては、アクティブラーニングを取り入れることが困難であるということもあったが、生徒がより主体的に授業に臨み、深い学びができるよう簡単なベア活動などできることから取り組んでいく。	
学校運営	○教育情報支援システム（SEIネット）と学習用PC導入への対応	教育情報支援システム（SEIネット）と学習用PCの効果的な活用方法を工夫する。	・SEI-Netの効果的な活用方法を確立する。	・県教育情報課やSEI-Netヘルプデスクとの連絡を密にし、出席統計・成績処理について業務の効率化を図る。 ・SEI-Netを活用する際、ミスをなくすよう確認手順を工夫する。	A	・今年度は、成績処理、出席管理、各種アンケート、生徒指導要録でSEI-Netを活用することができた。また、SEI-Netのアンケート機能については、多くの先生方に活用していただいている。 ・ヘルプデスクと連携を図りながら、先生方のSEI-Netに関する相談等に対応することができた。	・成績処理、出席管理、生徒指導要録への活用は便利であるため、今年度と同様に使用する予定である。 ・授業の欠課時数の入力に関しては非常に煩雑になったため、先生方の意見を尊重し活用方法を検討する。	
④佐賀を誇りに思う教育やグローバル教育の推進による、地域や国際社会の発展に寄与できる人材の育成								
領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題（左記の理由）	具体的な改善策・向上策	
教育活動	○佐賀を誇りに思う教育の実践	佐賀の歴史や伝統、産業や技術を尊重しつつ、次世代につながる魅力あるふるさと作りに貢献できる教育の実践	・地域の文化への関心を高める。	・講演会を実施し、佐賀の魅力を再確認することで、他の様々な文化への興味や関心を高める。 ・朝の自習時間を利用して、1年次に書籍「佐賀語り」を通して佐賀のことを学ぶことで、「ふるさと佐賀」に対して誇りと自信につながる見識を深める。 ・2年次は昨年度に引き続き、書籍「佐賀語り」を通して佐賀のことを学び、生徒各自で県のPR・ポスター等をデジタルデータで作成し、優秀作品を文化祭で展示する。 ・総合的な探究の時間でも、地域の課題について考え地域に貢献できる活動を実践する。	A	今年度も武雄市長に講演をいただき、武雄市が取り組んでいることや地域の方々が取り組まれたことを理解し、地域発展に貢献する意識の向上を図ることができた。 全国総合文化祭の補助などある中でも、夏休み期間のまちづくり参画事業に51名の生徒が参加し、積極的に活動した。また「佐賀語り」を利用することで、日頃から「ふるさと佐賀」に対して見識を深めることができた。さらに、まちづくり参画事業に多くの生徒が参加し、高校生としてできることを直に学ぶことができた。	佐賀の歴史や伝統、産業や技術を尊重しつつ、次世代につながる魅力あるふるさと作りに貢献できる教育の実践として、講演会等を通して意識向上につなげる。また、まちづくり参画事業と総合的な学習の時間も連携することで、効果的に地域発展に貢献する態度を育成できるように検討している。	
	○更なるグローバル教育の充実	グローバルな視野に立ち、世界で活躍できる人材の育成を目指した教育活動の実践	・生徒のグローバルな視野を広げるような授業や教育活動を実践する。 ・社会課題に対する関心を喚起し、コミュニケーション力や問題解決力を育む教育を実践する。	・国際理解教育講演会を始めとする諸活動の計画、実施を通して、本校独自のグローバル人材像やグローバル教育について職員のコンセンサスを図る。 ・佐賀大学留学生等との国際交流や、中高合同の海外研修などへの積極的な参加を促し、生徒が国際理解を深めることのできる機会を提供する。「探究Ⅱ」や日頃の授業を通して自分で問題解決を図る姿勢を身につけさせる。 ・地域的課題を発見し、解決に取り組むことから広い視野を身につけさせる。	B	・オーストラリア研修の中止は残念であったが、佐賀大学留学生との国際交流プログラムなどを行ったりして、生徒たちのグローバルな視野を広げる機会を提供した。 ・フィリピンからの留学生が3月まで在籍していたことで生徒の国際交流が日常的に行っていた。 ・「探究Ⅱ」の活動に、地域課題の解決に向けた取り組みを導入し、まちづくり参画事業との連携を行った。	・国際交流プログラムへのより多くの生徒の参加を促すため、実施時期について再検討し計画する。 ・次年度は留学生を受け入れ予定で、日常からの国際交流の場を提供できるようにする。 ・地域課題解決に向けての取り組みは、まちづくり参画事業との連携によりさらに計画的に進める。	
⑤様々な教育活動や生徒支援による、心身の健康の増進と豊かな心や想像力の育成								
領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題（左記の理由）	具体的な改善策・向上策	
教育活動	○生徒指導	規範意識の向上	・規則の遵守、防犯安全に対する意識を高める。 ・生徒指導措置件数0、加害としての交通事故件数0に努める。	・日々のホームルームや集会等を利用して、道徳やマナー・交通安全・情報モラル・人権意識等についての啓蒙を行う。 ・定期的に服装頭髪検査を実施し、武雄高校生としてふさわしい身なりを意識づける。 ・警察や県生徒指導連盟からの情報提供を参考にプリント・ポスター等で防犯意識を高める。	B	・集会等を通して、情報モラル、交通安全を中心に話をして、啓蒙することができた。 ・自転車旋錠指導も随時行ったが、不旋錠ゼロの日が少なかった。 ・生徒指導措置件数は1件だった。 ・交通事故発生件数は8件で、自転車利用者が7件（うち加害になった事故が1件）、歩行者と車の接触が1件であった。 ・ネットパトロールによる指導は1件であった。	・情報モラル教育について特にSNSの利用について幅広く啓蒙活動に取り組む。 ・日々の指導を通して自転車旋錠の習慣化を図る。 ・交通安全について、啓蒙活動に取り組む。	
		部活動の活性化	・部活動を通して、体力・忍耐力・協調性を養い、連帯感を身につける	・他の校務分掌や生徒会等と連携しながら、生徒の能力・適正、興味・関心等に応じた活動を行う。また、家庭や地域社会の教育力や支援を受けながら積極的に活動を展開していく。	A	・部活動では、例年と同じように弓道部、少林寺拳法部、バドミントン部、サッカー部が県大会上位入賞果たした。また今年度は男子テニス部が上位入賞し、九州大会出場を果たした。 ・生徒会執行部の活動において生徒の主体性が高まった。	・生徒会の各委員会や各部活動間において、リーダー会議などを実施することにより、連携する活動を活発にしている。	

教育活動	●心の教育	思いやりの心の育成	・ホームルーム活動や校外活動を通して、他者への思いやりの心を育てる。	・ホームルーム活動の時間に具体的なテーマを設定して考えさせる。 ・校内外におけるボランティア活動やイベント等の個々の活動の意義を明確にし、また関連するさまざまな情報を提供して、生徒の参加意欲を引き出す。 ・武陵祭でのクラス企画などグループ活動を通して、助け合いの心を育む。	A	・学校行事やHR活動・探究活動等を通して、多くのグループ活動を行い、協働活動をやり遂げることができた。 ・人権問題などを通して、他者への思いやりの心を培うことができた。 ・豪雨災害においても積極的にボランティアに参加するだけでなく、校外活動にも意欲的に参加し、社会へ貢献する機会を直に経験することができた。	・様々な研修や活動を実践しているが、しっかりと振り返りを行い、生徒自身が必要なことを見出し、社会に貢献できるように意識向上につなげる。 ・生徒自身が活動してきたことを記録し、自分のすべきことを常に確認できるようにする。
		学ぶ意欲のある生徒への対応	・保健室利用の生徒への声掛けや、ＳＣの積極的な利用を促す。	・ＳＣの活用や教育相談連絡会、特別支援委員会を通して職員間の共通理解を図り、生徒が円滑に学校生活を送ることができる方策を図る。同じように保護者に対してもＳＣの利用を進める。 ・シェアリングシートを活用し、生徒の休み状況を共有する。 ・学びたいが教室に入れない生徒の把握を行う。	B	・カウンセリングを通して、困り感のある生徒の実態把握を早期に行うとともに、カウンセリング記録を関係職員間で共有することで、個別の対応へつなげることができた。 ・教育相談室を適宜利用できた。今後はより有効に活用することが課題である。	・年度初めや学校祭の時期に困り感を持つ生徒が多くみられたので、その時期に効果的にカウンセリングを行うことができるような日程調整を行う必要がある。 ・引き続き気になる生徒について担任に声をかけをし、シートの入力方法を改善するなどの工夫をして、活用してもらうようにする。 ・副担も含めた情報の共有をより密にする。
	●いじめ問題への対応	いじめのない学校づくり	・早期発見に努めるとともに、認知事案に対しては早期解決に努める。	・学校行事や部活動において、生徒自身が集団との一体感を持てる取り組みを工夫することでいじめの起こらない雰囲気醸成する。 ・「いじめはどの学校でも、どの生徒にも起こり得る」という視点を常にもち、日々の観察、学校生活アンケートの活用、面談等より、いじめの早期発見に心掛け、いじめが認知された時は組織として迅速に対応する。 ・心の教育を通して思いやりの心を育成する。	B	・いじめに係る認知・認知件数は、認知が３件で、そのうち認知が３件であった。内容は冷やかしかからかい、嫌なことを言われたりされたりした。 ・本人や周囲からの聞き取りをはじめ担任、学年主任などと連携した迅速な対応により、問題の早期解決につなげることができた。	・担任をはじめ、教職員の普段からの目配りを心掛け、アンケートや日々の「学習と生活の記録」を活用し、いじめの早期発見及び解決に努める。
	●健康・体づくり	望ましい生活習慣の形成	・校内環境美化と学びの場所（教室等）の整備に努める。 ・健康診断を有効に活用し、健康な体づくりに努める。	・学校全体でゴミゼロ運動に取り組む。 ・健康診断後の治療勧告書や、保健だよりを通じて、健康な体づくりを目指す啓蒙活動を行う。 ・部活動を通して心身の健全な発達を促す。	B	・ゴミの持ち帰りは学校全体に浸透してきている。ただ、消しゴムの屑について考える必要がある。 ・健康診断後の治療勧告や、保健だよりによる健康な体づくりの啓蒙活動もできた。	・生徒会と連携して、校内美化に努める。 ・健康診断後の結果活用や、保健だよりによる健康な身体作りの啓蒙活動を行う。 ・生徒会と連携して、部活動の加入率をあげ、生徒のリフレッシュの場を作ることも必要である。
		学校保健教育の推進	・早期対応に努め、心身の健康相談活動を強化する。	・内科的訴えを起こす生徒が安心して相談できる場所と時間を提供する。場合によっては専門機関との連携を図ることがある。 ・「保健だより」を通して、時期に応じた内容の記事を掲載し、啓蒙活動を行う。なお保護者へのアナウンスも行う。	A	・保健室での応急措置件数は１月末時点で１４５９件であった。 ・スクールカウンセラー面談を勧奨し、担任の先生や保護者の利用もあった。スクールカウンセラーに学年の教育相談連絡会や、学校保健委員会に出席していただき、アドバイスを受けた。	・担任や学年との連携を密にし、また、専門機関との連携や、学校全体で組織的な対応ができるよう、今後も生徒とともに先生方に寄り添ったサポート体制を心がける。
	○図書館教育	望ましい読書習慣の育成	・生徒の読書量と質を向上させ、一人当りの年間貸出冊数４．８冊以上、貸出総数３，５００冊以上、各クラス６０％以上の生徒が貸出冊数２冊以上になることを目指す。	・図書館オリエンテーション、朝の読書、ＬＨＲでの一斉読書（クラス読書会）、学級文庫の活用等を通して積極的な学校図書館の利用を推進する。 ・「図書館だより」を通して、新着図書、お薦めの本の紹介等の情報発信を積極的に行う。 ・生徒たちの教養や知識の水準を上げるような本の提供を行う。	B	・貸出総数は３，４００冊、一人当たりの貸出冊数は４．５９冊であった（Ｒ２ ２月末現在）。冊数は数値目標に届いていないが、２年生は全クラスで６０％以上の生徒が本を借りている。よって特定の生徒だけではなく、幅広い生徒の利用という目標はある程度達成できた。 ・返却ポストを校内に設置したところ毎日利用があり、利便性の向上につながった。 ・「図書館だより」を月１回、「図書館報」を年１回発行して情報を周知した。 ・多数の職員の意見を参考にしながら、洋書も含めて良質な本を選書できた。	・図書館利用をより増やすため、教科や学年の意向も考慮しつつ朝の読書の時間を確保し、クラス読書会や学級文庫、返却ポストの設置も継続したい。今年度同様、生徒の身近に本があるような環境作りに努める。 ・「図書館だより」はできるだけ多く発行し、今年度同様分掌全員で作成に関わり、かつ図書委員にも記事を書かせる。 ・今後も分掌職員を始め全職員の協力を得ながら、幅広い分野の本を選書する。

⑥保護者や地域との連携を深め、広く共感と信頼を得られる学校づくりの推進

領域	評価項目	評価の観点 （具体的評価項目）	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題（左記の理由）	具体的な改善策・向上策
学校運営	○学校運営方針	本年度の重点目標の周知	・重点目標を知っている保護者の割合を80％以上にする。	・PTA総会において、学校評価計画を示し、本年度の重点目標について十分な説明を加えることで周知を図る。また、学年保護者会・学年通信・広報紙及び学校のホームページを通して、随時周知を図る。 ・生徒にも重点目標をしっかりと周知し、学校全体で目標達成に向けて取り組む。	B	・知っている、ある程度知っていると答えた保護者が65.4％で昨年度と変わらなかったため、さらなる改善が必要である。PTA総会や学年保護者会で重点目標を記載した資料を配布するなど充実させたがが不十分であったと考えられる。	・PTA総会など機会あるときに、重点目標を提示し保護者への周知を図る。 ・配布資料に記載する際、重点目標のフォントや体裁を考えた広報活動や簡略化した表現も検討していく。
	○開かれた学校づくり	PTA総会や学年保護者会の充実	・PTA総会への保護者の出席率を65％以上にする。	・ホームページを利用して事前の広報周知を徹底する。 ・総会の進行を効率化し、学年・担任との懸念が十分確保できるよう工夫する。 ・当日参加できなかった保護者のために、後日報告会を設定し、総会での内容を報告する。	B	・総会、授業参観、学年保護者会を含めて52％の出席率で、やや少なかった。ただし、総会では活発な意見交換ができた。 ・総会時以外の学年保護者会の出席も良好である。 ・大学視察や豚汁会にも多くの保護者に参加していた。	・昨年度より総会全体の時間を短縮した。総会に参加された方から不満の意見はなかったので、来年度以降もこの日程で計画をしたい。また、当日不参加者のために行った説明会も来年度も継続して行う。学年保護者会の内容を案内プリントに掲載する。
		中学生体験入学の充実	・体験入学の出席者数を募集定員の200％以上にする。	・早めに計画を立て、中学校に案内を出す。 ・ホームページを利用して事前の広報周知を徹底する。 ・内容を工夫し、中学生の興味関心を高める。	A	・他校との日程調整もでき、参加者206名と武雄高校を知っていただく機会を設けることができ、目標をほぼ達成することができた。 ・内容についても、生徒会と協力し、武雄高校の魅力を伝えることができ、体験授業も好評であった。部活動見学では、都合で当日活動できなかった部活もあったが、全体的に好評であった。	・体育館での時間短縮や、生徒会の学校紹介・郊外活動発表など、今年度は参加者に対して好評であった。来年度も今年度と同様に計画する。
		情報発信の推進	・広報誌「武雄高校だより」を年12回以上発行する。 ・ホームページの更新を頻繁に行う。 ・緊急情報等のWebによる情報提供を整備する。	・近隣の中学3年生全員の他、教育事務所や教育委員会にも配付する。 ・ホームページを利用して広報を徹底する。 ・在校生だけでなく中学生の興味も引くよう、内容を工夫する。 ・プレスリリースを積極的に行い、対外的な情宣活動に取り組む。 ・ホームページのお知らせ、eメッセージなどにより定期的に発信する。 ・更新が滞っている内容については、定期的な更新を促す。 ・緊急情報等はWeb配信・メール配信も活用する。	B A	・「武雄高校だより」は10回発行した。 ・今年度も「御船の嵐」として、広報誌・大会戦績等をまとめた資料を作成し、来校者への説明資料として配布できた。 ・武雄市のまちづくり参画事業や「佐賀を誇りに思う講演会」なども広報できた。 ・学校行事のプレスリリースなど積極的に行った。 ・今年度は新ホームページを円滑に行い、イベントカレンダー、学校からのお知らせ、図書館だより、学校だよりを定期的に更新した。 ・eメッセージの登録も円滑に行うことができた。 ・修学旅行中はeメッセージで状況を随時配信できた。 ・緊急情報等もeメッセージを活用した。	・体験入学・高校説明会で学校の様子など学校行事をよりわかりやすい形で情報提供できるよう学校ホームページなども積極的に活用していく。 ・新しいホームページの更新については、来年度も情報発信に努めるようにする。ただ、担当の過度の負担にならないように、読み手が望む情報を吟味し更新する。 ・学校・生徒・保護者を結ぶネットワーク環境の活用を図る。
教育活動	○魅力と活力ある高校づくり	地域との協働活動の推進	・地域の魅力を理解し、地域の将来を考える力を育む。	・武雄市と連携を深め、地域のリアルな課題をもとに現状を探る。また、地域の課題解決に向け魅力あるプランを提案できるように総合的な探究の時間等を利用する。 ・武雄市のまちづくり参画事業と連携し、昨年度からの武雄市のまちづくり参画事業を発展させ、地域との協働活動に取り組む関心を高める。	A	・武雄市との連携を深め、総合的な探究の活動を充実させることができた。各グループごとに計画したまちづくりについで実践し、地域の課題解決に向け、魅力ある将来のプランを創造的に組み立てることができた。 ・多くの校外活動の案内を生徒に周知し、生徒は積極的に参加することができた。	・高校地域魅力化プロジェクトでは、武雄市と協力して武雄市の特課題を見出し解決方法など様々な先行事例や文献を通してより深い学びを実現できるように計画してきて、まちづくり参画事業については、探究活動と結び付け、武雄市との連携により様々な視点から実践できるよう計画する。

⑦教職員の指導力向上、機能的・効率的な学校運営による組織力の強化

領域	評価項目	評価の観点 （具体的評価項目）	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題（左記の理由）	具体的な改善策・向上策
学校運営	○教職員の資質向上	学問への興味を喚起させ、学力をつける授業の実践	・教科の専門性を高め、奥行きのある授業の実践に努める。 ・指導方法の改善に取り組み、わかりやすい授業の実践に努める。	・県教育委員会主催の「大学受験指導力向上研修会」や「民間教育機関（予備校）への教員派遣事業」などへの積極的な参加を促し、個々の教師の指導力向上を図る。 ・各教科において、電子黒板や学習用PCの効果的な活用を通して生徒の興味関心を引き出し協働学習やアクティブラーニングにつながる学習活動の工夫を図る。 ・研究授業の実施や参観の機会を増やし、指導方法の改善に役立てる。 ・生徒による授業評価の結果をそれぞれの授業改善に役立てる。	B	・昨年の84名を大きく上回る延べ114名の職員が、民間教育機関の指導力向上研修や学校訪問、教師派遣事業に参加し、教科指導力、大学受験指導力の向上に努めた。 ・今年度、電子黒板が新しく入れ替わり、新しい機能が使えるようになった。多くの職員が新しい黒板の説明会に参加した。アクティブラーニングや生徒の主体的学習活動に活用している。新しい情報システムになり、SEL-Netが使えなくなり、学習用PCでのアンケート機能などが使えなくなった。 ・研究授業の実施や参観の期間を設けているが、校地が離れているために、うまく機能しているとは言えない。 ・生徒による授業評価の結果を職員に周知し、授業改善に役立てている。	・指導力向上への意欲も高く、積極的に予備校の研修会などに参加している。来年度も、進路を中心に積極的に呼びかけてもらい、指導力を図り、生徒に還元する。 ・新システムにより使えなくなった機能については、Classi等を使って補っていく。そのために、Classiの研修会を開催する。 ・中高の日程を調整し、職員に負担をかけない時期を設定し、研究授業を行い、じっくり研究討議まで行えるようにする。
	●業務改善・教職員の働き方改革の推進	機能的・効率的な学校運営による組織力の強化	・機能的で効率化を目指した職場環境の整備に努める。 ・具体的な時間的、量的、質的負担の軽減を全員で取り組む。	・週休日の部活動の練習時間の削減、休業日の確実な設定、顧問の交代での指導を行う。 ・出張業務の精選、会議時間の短縮化、校内メールやメッセージ機能での情報の共有を行う。 ・閉庁日の設定や校内LANの稼働時間の短縮を行う。 ・分掌組織の改編や業務分担内容の見直しを行う。	A	・毎月行っている部活動の休業日調査（4月～12月）の結果では、週1日以上部活動の休業日は、100％達成している。また、週2日以上休みの休業日も、78.9％で、県立学校の平均52.5％を大きく上回っている。 ・振休や年休取得の定着により、時間外労働時間が昨年より減少した。 ・夏季休業中に閉庁日を設定し、校内LANの稼働時間も、延長することはほとんどなかった。 ・会議に対して構成メンバーを見直し、職員の負担を減らす必要がある。	・休日1日、平日1日の休業日が確実にとれるように、各部活動顧問が年間計画を見直していく。 ・今年度、時間外労働時間の月平均が、60時間前後であった。11月に県から示された月平均45時間以内を目標に、さらに振休の徹底、年休取得の奨励などを行い時間外労働時間の削減に努めていく。 ・来年度は、夏季休業中に閉庁日を5日設定する。今年度内に会議のメンバーを見直し、来年度からうまく機能するように準備しておく。
	○教育環境の整備	施設・設備の充実、効率的な予算の配分・執行	・PTAと連携を図り、生徒にとって健康かつ有意義な学校生活を送れる環境を整える。 ・限られた予算の有効かつ効率的な執行に努める。	・PTAで設置する空調設備に関して、特別教室への新規設置と、15年以上経過した普通教室と多目的教室の空調機器の更新を6月までに完了させる。 ・施設の点検を定期的に行い、補修等が必要な箇所は早急に対応を行う。 ・各教科及び分掌とヒアリングを行い、必要な予算の取捨選択を行うとともに、不要となった物品等の整理を行う。	A	・PTAによる空調設備の新規設置及び更新については、計画的に工事を行うことによって早期に工事を完了させ、夏季には通常の使用ができた。 ・点検によって判明した危険箇所については、教育総務課に予算要求を行うなどして改修工事につなげ、今年度は屋外階段の手摺を取り替えた。一方で、雨漏りをしている箇所があるなど、施設・設備の老朽化が目立ってきている。 ・8月の豪雨により校地内の一部法面が崩壊したが、現在仮復旧工事までを行い、安全確保のため校地内の一部は立入制限をしている。 ・予算については厳しい現状の中、各教科及び分掌と適宜連絡調整を図りながら、効率的な執行に努めている。また、不要品の整理については、CAIパソコンを整理し、売却処分を行った。	・予算が縮減されるなか、必要な教材や物品等を整備できるように、節電、節水などの意識向上をさらに職員・生徒に働きかけ、効率的な予算執行に努める。 ・施設、設備の老朽化については、学校運営に支障が出ないように早めに改修箇所の把握を行い、予算措置が必要なものについては教育総務課への予算要求を継続して行っていく。 ・校地内一部法面の崩壊については、現在国庫補助の審査中である。予算が確定したら早めに現況復旧及び排水対策の工事着工につなげる。

4 本年度のまとめ・次年度の取組

「進路第一希望の達成」、「教職員の指導力向上」、「生徒の実力養成」、「いじめのない学校づくり」、「保健教育」、「図書館教育」、「PTA活動」等ほとんどの項目において、達成度としてはおおむね目標通りの活動がなされてきた。「志を高める教育」、「教育情報システムと学習用PCの効果的な活用方法」、「佐賀を誇りに思う教育の実践」、「部活動の活性化」、「思いやり教育の実践」等については、生徒の自発的・積極的な活動参加により、予想以上の成果をもたらし、学校の活性化に大きく貢献している。特に、今年度より県の「地域とつながる高校魅力づくりプロジェクト」の指定を受け、武雄市の協力も受けながら、「武雄市まち歩き」、出前講座など様々な活動に取り組むことができた。今後も武雄市の協力を受けながら、さらに活動の枠を広げていきたい。また、「併設中学校との連携」では、中高一貫教育推進委員会において、中高で意見交換を重ねることで、中高一貫の問題点や新しい方策などが具体化されてきたので、新年度にはその実現に向けて取り組んでいかなければならない。本年度は交通事故も多く発生した。中には生徒が交通ルールを守っていても、事故に遭遇したケースもあり、注意喚起を続けていく必要がある。

来年度も武雄青陵中学校と協働して6年間の教育活動を再構築したランドデザインに基づいて、教育目標を実現するように職員一丸となってその実践に努めていきたい。

今年度も、多様な悩みや困り感を抱えた生徒が多く存在した。定期的に開催される教育相談連絡会は、生徒対応において統一した理解と指導方針が共有され、一定の効果があつた。また、スクールカウンセラーとの連携を積極的に行うことで問題解決の糸口を見出す例が多数あつた。今後も福祉分野・医療分野や児童相談関係、NPO法人等を含めた外部との連携を効果的に活用し、さまざまな問題に対して対処していきたい。

学校教育目標の周知を含めた広報活動については、PTA総会や学年保護者会等集会の場だけでなく、学校ホームページやeメッセージなどICT機器を多用することで、保護者への周知と外部への広報活動を積極的に展開し、より開かれた学校づくりに取り組んでいきたい。

●は共通評価項目、○は独自評価項目